



## はばたけ！佐世保のアスリート⑤

### 自転車競技(トラック)

自転車競技は、自転車を競技用具として使用し、競技者自らの力だけで速さを競います。自転車競技の魅力は、他のスポーツには見られないスピードと迫りに尽きますが、勝敗のポイントはそのスピードで生じる空気抵抗をいかに克服するかです。今回は市内で唯一自転車部がある鹿町工業高等学校の部員の皆さんをご紹介します。



鹿町工業高自転車部  
キャプテン  
松井航平さん  
(山澄中出身)

小学1年生のとき、父の影響で自転車競技を始めました。他のスポーツにはないスピード感に魅力を感じています。きついですが、みんなで楽しみながら練習しています。目標は長崎がんばらんば国体での総合優勝です。応援よろしくお願いします！



副キャプテン  
松尾颯汰さん(中里中出身)  
学校の自転車部のポスターを見たのがきっかけで競技を始めました。国体での入賞を目指してがんばります。



部員  
古賀友康さん(早岐中出身)  
小学校高学年のころ、自転車教室に通ったのをきっかけに競技を始めました。ロード競技で優勝して、長崎県に貢献します。

長崎 **がんばらんば** 国体 2014 長崎 **がんばらんば** 大会 2014 自転車競技(トラック)10月14日(火)～17日(金) 会場 佐世保競輪場  
※ロード競技は10月13日(月)に壱岐市で行われます。 国体推進室 ☎76-7103

## オオキンケイギクの駆除にご協力ください



オオキンケイギクは、5～7月にコスモスに似た黄色い花を付ける植物で、道路脇や川原などでよく見られますが、元々は北米から持ち込まれたものです。周辺の生態系などに悪影響を及ぼす恐れがあるため「特定外来生物」として栽培など分布を拡大するような行為が禁止されており、環境省では見掛けたら駆除するように呼び掛けています。駆除する際は根から引き抜き、透明または半透明の袋に密閉して枯死させ、燃やせるごみとして出してください(指定ごみ袋で出す必要はありません)。

九州地方環境事務所 ☎096-214-0339

### 人の動き 4月1日 現在

- 総人口 254,546人(-1,655人)  
男性 119,205人(-982)  
女性 135,341人(-673人)
- 世帯数 105,273世帯(-283世帯)
- ※3月中の動き  
転入 2,166人、転出 3,733人  
出生 185人、死亡 273人

### させぼ市政だより

- テレビ  
※4月からNCC、NIBの放映時間が変わりました。  
NBC→土曜9時25分～30分  
KTN→土曜11時40分～45分  
NCC→土曜10時55分～11時  
NIB→日曜6時25分～30分
- ラジオ  
NBC 日曜 9時25分～30分  
FM長崎 火曜 9時5分～10分  
FMさせぼ 火曜10時30分～35分  
日曜 9時30分～35分
- 新聞 長崎新聞 毎月第2・4火曜

## 市長日記

# 大航海時代から大交流時代へ！ ～誘致合戦には「おもてなしの心」が重要です～



15世紀から17世紀ごろに「大航海時代」と称された時代があります。ポルトガルやスペインを中心とするヨーロッパ諸国が、帆船を使って地球規模の遠洋航海を実施し、積極的に海外進出を行っていた時代で、バスコ・ダ・ガマがインド航路を開拓したり、コロンブスがアメリカ大陸に到達したりしました。

これに対し、21世紀は「世界大交流時代」と言われています。大航海時代には一部のしかできなかった海外渡航が、飛行機や大型クルーズ船などの運送手段の発達によって容易にできるようになり、世界各地の多くの人々がさまざまな場所で交流していることを意味しています。

大交流時代と言われている今、全世界の観光客数は約10億8700万人(2013年実績)にも上っており、2020年には16億人を超えることが予測されています。一方、我が国を見てみると、2013年によく1000万人を超えたものの、国際的な旅行者数ランキングでは33位(2012年実績)にとどまっている状況です。

【参考】1位フランス約8300万人、2位アメリカ約6700万人、3位中国約5800万人、15位タイ約2200万人、23位韓国約1100万人(2012年実績)

こうしたことを受け、現在、政府は訪日観光客3000万人を目指そうとしています。今の実績の3倍であり、飛行機を中心とした輸送にも限界があるため、今後は国際観光クルーズ船の誘致に、さらに力が入られるのではないかと考えています(2012年の日本の港湾へのクルーズ船の寄港回数は、外国船社クルーズ船476回、日本船社クルーズ船629回で合計1105回(前年比297回増)。このうち外国船社クルーズ船の寄港は、博多港85回(全国1位)、長崎港72回(同2位)となっており、この数字からも佐世保寄港の可能性が感じられると思います)。

このような中、本市では、大型クルーズ船(7万トン級)の寄港が可能となった三浦岸壁に、4月4日(金)、ついにオランダ船籍の「フォーレンダム」が初寄港しました。岸壁に立ち、千数百人の乗船客を伴って寄港する巨大な船体を目の当たりにした時には、進化を遂げる佐世保を実感するとともに、大変感慨深いものを感じました。

今後は4月29日(火・祝)から5月15日(木)までに、イタリア船籍の「コスタ ピクトリア」が4回寄港し、秋には「飛鳥II」などの寄港も予定されています。また、来年4月には三浦岸壁に国際ターミナルが完成し、CIQ(税関、出入国管理、検疫)施設も整備されますので、利便性がさらに増すことになります。

このように本市においても「大交流時代」がいよいよ始まり、この好機を本市の発展につなげるため、さまざまな施策を進めているところですが、今後このクルーズ船誘致競争は、国内の各港間でますます激しくなることが予想されます。

国際クルーズ船を誘致するためには、「世界に通用する素晴らしい観光地があること」「しっかりと受け入れ態勢が整っていること」などが必要とされていますが、最も大切なのは「そのまちに住む皆さんのおもてなしの心」と言われています。

今回の「フォーレンダム」の寄港時には、入出港時の歓送迎行事に多くの市民の皆さんにご協力をいただき、心を込めたおもてなしをすることができました。本市では観光立市「佐世保」の実現に向け、今後とも市民の皆さんと一体になって、国際クルーズ船誘致に全力で取り組んでいきますので、市民の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

佐世保市長 朝長 則男



佐世保港に入港する「フォーレンダム」



海上自衛隊佐世保音楽隊による演奏



ハウステンボス歌劇団によるオリジナルショー



黄色のハンカチを振って見送る市民の皆さん



佐世保らしいジャズの音色が奏でられる中、出港するフォーレンダム

※今月号の「徳育通信」は19ページに掲載しています。